

令和四年度 専修大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注意

- 一、試験時間は五十分です。
- 二、問題は一ページから十四ページまでです。
- 三、答えはすべて解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
- 四、答えを書きなおすときは、きれいに消してから新しい答えを書きなさい。
- 五、問題用紙も、試験終了後回収します。

一次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答は全て句読点、記号も一字に含める。)

① このごろの本は表紙で売る。先日、出版社の人からそんな話をきいて、まさかと思った。いくら何でも、そんなことはあるまい。ところが、あとで考えているうちに、いっこうにパツとしなかつた私のある本が、選書のカバーが新しいデザインになったとたんに売れ出したのを思い出した。やっぱりそうか。

主婦が八百屋^aでキュウリを選ぶときにも、まず [I] を気にする。曲^{まが}つたのは、いやーねえと敬遠されてしまうから、農家はとにかくまつすぐでありさえすれば、と思うようになる。ミカンはミカン色、お茶はお茶らしい色をしていないとお客が承知^{あいきよ}しないから、着色加工がされるようになる。

そんなのはまだお愛嬌^{あいきょう}である。デパートで正札千五百円の下着があまり売れないから、二千五百円に正札をつけ替えたなら売れるようになった。品物を買っているのではなく、値段を買っている。安物はいや、高級品を買いたい、いや、そうではない。高級の [II] を買いたいのである。

人間だつてそうだ。ろくによく知りもしなくせに、あの人いい感じ^{まが}だつたり、いいやな感じ^{まが}となつたりすると、評価はそれで決まつてしまう。人間も中身よりカバーか。男性カツラが売れるはず。この世はあげて面食いになつたらしい。

それでちよつと気になり出したのが、このごろ若い政治家が妙に男前になつてきたことだ。急に生まれ変わるわけにはゆかないから、やはり選挙のせいに違いない。面食い有権者から、いい感じ^{まが}と思われないと当選しないのではあるまいか。それでハンサム・ボーイがふえたのだらう。それはいいが、タレントや役者のような人間でないと選挙に勝てぬとなつたらどうする。それこそ議会政治の危機である。

テレビのコマーシャルがおもしろかったから、あの味噌買ってみようか、という奥さん。建物が堂々としているからあの大学にしようかと考える受験生。面食い文化は広く深く現代にシントウしている。どうしてこういうことになったのか。一口で言ってしまうえば、教育普及のせいである。

教育はすべての事象を言語に置き換えて処理する。知識も思考も、すべて言語を通じて行われる。ある有名な文学者が田舎へ行って、カエルのなき声をきいて、何だと言ったそうだ。もちろん文学の中ではカエルはゲロゲロ鳴いているのだが、ほんもの？ はきいたことがなかったらしい。こういう人でも文豪になりうるのが人間社会のおもしろいところである。

③ 現実や実態を言語という記号へ翻訳して扱うから、複雑なことも比較的簡単な形にして理解することができる。教育は言葉による教育である点はおつとしばしば反省されてよい。同世代の九〇%以上が高校進学、同じく三五%以上が大学進学といういまの日本は、これまでになく言語人間をたくさん育てていることになる。

④ 高等教育を受けた人は一般に言葉に神経質で、言葉にこだわるが、そのわりに現実についての関心はあまいことが多い。言葉づらさえよければ納得するのであろうか。そして、これが面食い文化を生み出すというわけだ。

対立した労使が話をつけるのに、よく「玉虫色」の解決という手が使われる。本当は合意に達していないのに、ひとつの表現を双方で自分の都合のいいように解釈し、相手がそういう解釈をしていることを黙認してことを収めようとする。くさい実際には言葉のフタをして、そのフタをふた通りの名前で呼ぶのが玉虫色の解決である。近年たいへん人気がある方法だ。

それに本音と建前の問題がある。本音は別にあるが、それはそれとして、建前はりっぱでないとまわりが納得しない。看板はもつともらしく、実際はまあまあ、そこは何とか……という羊頭狗肉である。玉虫色と同じく、建前を飾る

のも言語による欺瞞^{ぎまん}で、こういうことが流行のようになったというのは、学校を出た人たちがあまり誠実でない証拠になる。言葉だけつじつまが合っていれば、それでいいとする点取り主義がいかに多いかを暗示している。

近代社会は世間体をとつくりようヨッキュウ^cによって動くと言われるが、人が見ていなければ何をするかわからない。見ていてもかわりのない人間なら、何をしでかすか知れない。いわゆる知識人たちにはそういうおそろしい半面がある。馬子⁷にも衣裳^{いしやう}。その衣裳のことはかり気にして、衣裳さえよければ、馬子は人間でなくても平気だと言い出しかねない。

⑧ 一般意味論は誤解と混乱を避けるために、言語における抽象のはしごをおりろと教えるが、われわれはいま、ときどき言葉のバスからおりて、自分の足で歩いてみる必要のあることに気付かなくてはならない。ものごとに直接ぶつからなくてはならないときにでも、ただ言語にのみ反応していることがいかに多いことか。

入学試験に失敗して、あるいは、失敗したと思ひ込んで自らの命を断つ若い人がある。試験に落ちるのは苦しい経験であるが、生きていられないほどのことではない。しかし、長い間、落ちたらどうしようという^d想念につきまとわれている人間は、やがて、その怖^{おそ}しさからのがれられるのなら何でもしたいという^{きもち}気持に追い込まれるかもしれない。現実が怖^{おそ}しいのではなく（それはやってきてみなければわからぬし、いざやってきても、たいていは何とかなるもの）、取り越し苦労でふくらんだ言葉の方に苦しめられる。

不合格という現実以上に、不合格^eということばがおそろしいというところに、言語人間としての面目もあるわけだが、現実を抜きにして言葉との間でタンラクをおこすようになってしまっても困る。

ベルを鳴らして犬に餌^{えき}を与えることを繰り返すと、やがて、ベルをきかせるだけで、犬はダ液を分泌するようになる。パプロフの条件反射である。ところが、人間は餌をもらわなくても、ただ、絵にかいたご馳走^{ちそう}を見せられて、おい

しい、と教えられると、味わったことのない料理を珍味だと言ってはばからなくなる。頭がいいのか、お人好しか、わからないが、犬ほどに正直でないのだけははつきりしている。^⑨

学校教育は実際の料理を与えないで、写真のご馳走を見せて、これが料理だ、おいしいのだと言いきかせる洗脳を行う。うまく洗脳されたのが優等生というわけだ。絵にかいた餅もちはどうせ食べられないのだから、せめて美しくかいておいてほしい。それが面白い人間の腹の中。

外山滋比古『ライフワークの思想』（ちくま文庫、二〇〇九年）所収「面食い文化」

問一 傍線部 a ~ e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二 空欄 I・II に当てはまる語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|
| ア | グレード | イ | スタイル | ウ | デザイン |
| エ | カバー | オ | イメージ | カ | ジャンル |

問三 傍線部①「このごろの本は表紙で売る」とあるが、これと性質が異なる具体例は次のうちどれか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お茶らしい色をしたお茶を選ぶ。

イ 安物をいやがり高級品を求める。

ウ 選挙でハンサムな候補者に投票する。

エ テレビコマースャルにひかれて味噌を買う。

オ 堂々とした外見の建物にひかれて大学を選ぶ。

問四 傍線部②「おもしろい」とあるが、このときの筆者の心情に最も近いものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 賞賛

イ 驚嘆

ウ 皮肉

エ 愉快

オ 憤慨

問五 傍線部③「現実や実態を言語という記号へ翻訳して扱う」と同じような意味の語句を本文中から十九字で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問六 傍線部④「言語人間」とあるが、「言語人間」になるとどうなるかがあるか。本文中から二十三字で探し、初めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問七 傍線部⑤「羊頭狗肉」のように、次のA～Cの四字熟語は動物（空想上を含む）を表す漢字を使ったものである。空欄に当てはまる動物を後の語群から選んだとき、一度も使用しないものを記号で答えなさい。

A 一石二（ ） B （ ）口（ ）後 C （ ）頭（ ）尾

ア 牛 イ 馬 ウ 竜 エ 鳥 オ 蛇 カ 鶏

問八 傍線部⑥「言語による欺瞞」とは「言語によつてだますこと」であるが、これは人々のどのような態度によつて生じたのか。本文中から十五字以内で探し、抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑦「馬子にも衣裳」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア どんな人間でも身なりを整えれば立派に見えること。

イ 衣服が、着た人の心に大きな影響を与えること。

ウ 自分の子や孫が着ればどんな衣服でも良く見えること。

エ 身分が低い者こそ良い服を着たほうが良いということ。

オ 飼っている馬ですら着飾れるほど裕福だということ。

問十 傍線部⑧「言葉のバスからおりて、自分の足で歩いてみる」とあるが、これはどういうことか。本文中の語句を用いて、二十字以上三十字以内で簡潔に答えなさい。

問十一 傍線部⑨「犬ほどに正直でない」とあるが、このように言える理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 犬は餌の内容で良し悪しを判断するのに対し、人間は食事の内容よりも周囲や世間からの評判に左右されて良し悪しを判断してしまうから。

イ 犬はあくまでも餌を与えられる受け身の存在であるのに対し、人間は自分からご馳走を食べられるにもかかわらず食べないから。

ウ 犬はおいしくない餌には見向きもしないのに対し、人間はたとえご馳走が口に合わなかったとしても嘘をついてその場をとりつくりうから。

エ 犬は餌を与えられた経験からダ液を出すようになるのに対し、人間は経験したことのない食事でもおいしいと言うようになるから。

オ 犬は餌を見たらダ液を出すという素直な反応を示すのに対し、人間は周囲の目を気にして食事への興味を隠そうとするから。

二次の文章を読んで、後の問に答えなさい。なお、出題の都合で小見出しを省いたところがある。(解答は全て句読点、記号も一字に含める。)

「よいひと」とはどんなひとをいうのだろうか。

たいていの人間に期待できそうなことはきちんとしてくれるひと。そういうひとは信頼できる。よいひとと呼んでよい。他人のためになるが誰かがするとはかぎらないことに尽力するひと。それならますますそうだ。こういうひとはむしろ、立派なひと、尊敬すべきひとと呼べそうだ。そういうひとが大勢いれば助かるし、よいひと自身も他のよいひとに助けられ、みながその恩恵に浴する。I、以上のタイプのよいひとは、私たちが一緒に生きていくのに役立つひとのことである。

ところで、私たちは別のタイプのひとも立派に思い、尊敬する。たとえば、自己鍛錬をオコタラぬアスリート、創作に没頭する芸術家、つねに工夫を凝らす職人、などなど。自分の生き方をみずから選びとって精進している点に、私たちは感心する。ア

道徳と倫理は同じ意味で使われる場合もあれば、使い分けられる場合もある。使い分けられるときのその違いは大まかにいって「よいひと」の意味のこの二つの要素に対応している。道徳とは、私たちが一緒に生きていくために守るべき行為規範の体系である。イ 私たちの共同生活の破綻を防いだり(たとえば、「ひとを傷つけてはいけない」、共同生活をいっそう有意義にしたり(たとえば、「ひとには親切にすべし」)する教えがそこに含まれている。

これにたいして、倫理は本人の生き方の選択に関わる。先に挙げたアスリートや芸術家の例にかぎらず、誰もが自分の人生を選んでいく。だから、倫理に含まれる教え(たとえば、「自分の能力を伸ばすべし」「自分の一生を大切にせよ」)もどのひとにもあてはまる。

①「道徳と倫理のそういう使い分けは初耳だ」といわれるかもしれない。もっともだ。ウ その違いはラテン語の mos とギリシア語の ethos に由来する。どちらも慣習を意味するが、ethos のほうは気高い性格という意味も含意する。「道徳」という日本語はラテン語起源の、英語でいえば moral の訳語にあてられる。「倫理」という日本語はギリシア語起源の、英語でいえば ethic (ethics とは別の語である。ethics については後述) の訳語にあてられる。エ

だから、日本語の道徳と倫理という語に上のような区別はもともたないけれども、ラテン語とギリシア語のこの語源を反映させて、世間のきまりを遵守する生き方を道徳的、矜持ある生き方を倫理的と呼び分けることができる。

上の説明では、世間のきまりに自分が従うか否かの倫理的決断が自由にできるように聞こえるかもしれない。

オ 自分で自分の生き方を選ぶ決断を称揚する実存主義がそれであり、ひとえに自己に誠実であることを重視する。

Ⅱ、私たちはたいいてい生まれ育ってきた環境に影響されて自分の生き方を選んでいく。すると、生き方の選択に関わる倫理と世間のきまりという意味の道徳は、結局、同じことに帰着するの。いやそうではない。道徳について説明したときに用いた「私たちが一緒に生きていく」という語句に注意しよう。日常に使う言語、生まれ育つなかで身につける習俗や文化の伝統、さらには宗教がほぼ一緒の、ひとたちからなる結びつきを共同体と呼ぶ。これにたいして、文化や伝統や宗教が違っていてもその違いから相手を否定することなく、一緒に生きていけるようにする結びつきを社会と呼ぼう。

近代化とは、価値観を共有する者たちから成る共同体が価値観の異なる人びとに開かれてゆくカテイである。現代の多くの国々は母語が異なる移民を受け容れている。こうした価値多元社会では、誰でも自分がよいと思う生き方を追求してよいし、本人が選んだ生き方を尊重すべきだという考えが社会に共通の規範として認められている。この規範は道徳に属す。

これにたいして、多様な生き方の選択肢とその選択肢のなかから自分の生き方を実際に選ぶことは——自分が生まれ

育った共同体のなかで身につけた生き方を選ぶ場合もあれば、あるいはそれに反発して社会のなかで見聞した別の生き方を選ぶ場合もある——倫理に属す。たとえば、「私はカトリックの教えにしたがつて生きる」という決断は倫理に属し、「他のひとは別の宗教を信じてよいし、何の宗教も信じなくてもよい」という態度は道徳に属す。

先に道徳を世間のきまりと呼んだが、世間という語は共同体を連想させるかもしれない。正確にいえば社会のきまりである。だから、「郷に入れば郷に従え」や「長いものには巻かれる」という教えは、同質性を好む共同体のなかでマサツなく生きていくための実用的な知恵ではあっても、自分で考えることを放棄しているから上記の意味での倫理ではないし、他人の生き方への抑圧につながる点で上記の意味での道徳でもない。

すると、^⑤こうした教えがいまだに力をもち、ギリシア語やラテン語に由来する区別がもともたない日本では、倫理も道徳も結局は「既存の慣習に順応せよ」という命令にすぎないのではないか。その点の検討は大切である。とはいえ、そういう疑念をもつことのできたひとは、これまで説明されてきたことを理解したからこそそう問うたわけだ。その説明は日本語でなされた。だから、倫理と道徳の違いや近代社会の価値多元主義を日本語で思い描くこともできるはずである。

さて、^⑥以上のように倫理と道徳は使い分けられるのだが、他方で、倫理と道徳はほぼ同じ意味でも使われている。というのも、よいひとは、^X力点が置かれる程度の差はあれ、二つの要素を兼ねそなえたひとのことだからである。

たとえば、^Y本人が選んだ生き方のせいで他人の不利益や危害を招くひとは、よいひとだとはとていえない。逆に、すべきことをきちんと果たしていても、その行為が正しいとか相手のためになると自分で判断してそうしたのではなく、他人の指示や非難や賞賛に動かされたのなら、よいひとはいいがたい。そういうひとは間違った対応はしなくとも、故障していない機械をあてにする程度にししか信頼できない。

品川哲彦『倫理学入門——アリストテレスから生殖技術、AIまで——』（中公新書、二〇二〇年）

* 1 ethics については後述：該当箇所では、英語では倫理学のことを ethics、または道徳哲学

(moral philosophy) と呼ぶと記している。

* 2 矜持：自分の能力を信じて持つ誇り。プライド。

* 3 実存主義：第二次世界大戦後、フランスで盛んになった考え方。

問一 傍線部 a) e のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で答えなさい。

問二 次の一文は本文中の空欄 [ア] [イ] [ウ] [エ] のいずれかに入る。当てはまるものを記号で答えなさい。

その点を強調する思想もある。

問三 空欄 [Ⅰ]・[Ⅱ] に入る接続詞として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア また イ そして ウ けれども
エ なお オ なぜなら カ だから

問四 傍線部①「道德と倫理のそういう使い分けは初耳だ」といわれるかもしれない」とあるが、なぜ筆者はこのように述べたのか。次の空欄に当てはまるように十字以内で答えなさい。

道德と倫理は、ため。

問五 傍線部②「ひとえに」の品詞名を漢字で答えなさい。

問六 傍線部③「生き方の選択に関わる倫理と世間のきまり」という意味の道德は、結局、同じことに帰着するのか。いやそうではない」とあるが、筆者はなぜそのように考えるのか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 道德はラテン語、倫理はギリシア語とそれぞれ異なった起源を持った訳語であるから。
- イ 共同体が社会へと変化する流れの中で、倫理と道德は別のものと定義されてきたから。
- ウ 近代国家は多くの移民を受け容れることによって、価値多元社会を構築してきたから。
- エ 多様な価値観を許容する決まりを持つ社会において、各自の選択は尊重されうるから。
- オ 抑圧を生んだ共同体への反省から、倫理と道德を共に備えた近代社会が生まれたから。

問七 傍線部④「私たち」とはどのような集団を指すのか。本文中から十字で探し、抜き出して答えなさい。

問八 傍線部⑤「こうした教え」とあるが、筆者はそれを何だと言っているか。本文中から六字で探し、抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑥「倫理と道徳は使い分けられる」とあるが、筆者は「倫理」と「道徳」をどのようなものと述べているか。次の空欄 [A]・[B] に当てはまる語句を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

倫理は [A] に関するものだが、道徳は [B] に関するものである。

- ア 社会を生き抜く工夫 イ ひとに必要な審美眼 ウ 社会で守るべき規範
エ ひとの生き方の選択 オ 社会を改善する姿勢 カ ひとが持つ趣味趣向

問十 二重傍線部 X・Y について、どちらも筆者は「よいひと」ではないと述べる。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア Xは道徳的によくない行動をとっており、Yは倫理的によくない行動をとっている。
イ Xは倫理的によくない行動をとっており、Yは道徳的によくない行動をとっている。
ウ X・Yともに倫理的によくない行動をとっている。
エ X・Yともに道徳的によくない行動をとっている。

問十一 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本では道徳と倫理の区別がなかったため、共同体のなかで円滑に生きていくために必要不可欠な規範が何よりも大切であった。

イ 私たちは自分自身で生き方を決めることができるが、実際には生まれ育ってきた環境に影響を受けて選んでいるのである。

ウ 共同体は同質性を好むため、その内側にいる人々は自分で考えることを放棄しており、決められた道徳だけが機能している。

エ 同じ考え方を持つ人々が集まったにも関わらず、意見の対立が起こるのは相手への思いやりの精神が欠けているからである。

オ 自分が正しいと思つた決断が他人に迷惑をかけるならば、責任を取る覚悟を示すことが倫理的であり、道徳的な態度である。





